B1FH-A532-01

GRANPOWER5000 モデル 280 取扱説明書
追補版

FUJITSU

はじめに

このたびは、弊社の GRANPOWER5000 モデル 280 をお買い求めいただきまして誠にありがとうございます。

本サーバに添付されております「GRANPOWER5000 モデル 280(1998 年 10 月発表タイプ) 取扱説明書 (B1FH-4861-03)」に内容の追加／変更がございましたので、マニュアルをご覧になる場合に下記に示します内容を合わせてお読み下さるようお願いいたします。

1999 年 10 月

当社のドキュメントには「外国為替および外国貿易管理法」に基づく特定技術が含まれていることがあります。特定技術が含まれている場合は、当該ドキュメントを輸出または非居住者に提供するとき、同法に基づく許可が必要となります。

本装置は、社団法人日本電子工業復興協会のパソコン業界基準 (PC-11-1988) に適合しております。

電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置などを使用されることをお薦めします。

(社団法人日本電子工業復興協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示)

注意

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) の基準に基づくクラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

本装置は、社団法人日本電子工業復興協会のパソコン業界基準 (PC-11-1988) に適合しております。

高調波ガイドライン適合品

IBM は、米国 International Business Machines Corporation の登録商標です。

EGA/VGA、PS/2 は、米国 IBM の米国での登録商標です。

Pentium および LANDesk は、米国インテル社の登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT、MS、MS-DOS は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

NetWare は、米国ノベル社の商標です。

IntranetWare、GroupWise は米国ノベル社の米国における商標です。

その他の各製品は、各社の商標または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

All Rights Reserved,Copyright © 富士通株式会社 1999

画面の使用に際しては、米国 Microsoft Corporation の許諾を受けています。

安全上のご注意

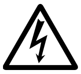
警告表示の意味

本書では、いろいろな絵表示をしています。これは装置を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解の上、お読みください。

⚠警告	**この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。**
⚠注意	**この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。**

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使用しています。

感電



△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容（左図の場合は感電注意）が示されています。

分解

⃠で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が示されています。

プラグ

●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が示されています。

目　次

1.　1999 年 10 月発表タイプの追加／変更点 1

2.　追加／変更内容の詳細 2

2.1 OS 2

2.2 内蔵オプションベイ 3

2.2.1 ノンホットプラグベイへの内蔵ハードディスクユニットの取り付け／取り外し 4

■ IDE 規格の内蔵ハードディスクユニットの設定 4

■ SCSI 規格の内蔵ハードディスクユニット（GP5-HD9G3/GP5-HD8G1）....... 4

2.2.2 ホットプラグベイへの内蔵ハードディスクユニットの取り付け／取り外し／交換 7

■ ホットプラグベイへの取り付け手順 7

■ ホットプラグベイからの取り外し手順 8

2.2.3 拡張カード 9

■ 搭載可能な拡張カード 9

■ 拡張カードの搭載順について 10

2.3 ソフトウェアのインストール 11

2.3.1 使用するドライバ 11

2.3.2 SBS4.5 のインストール 12

■ インストール時の留意事項 12

■ インストール手順 12

■ SBS 4.5 インストール後の注意事項 16

■ システム修復ディスクについて 17

■ 管理ソフトウェアのインストール 18

2.3.3 その他の留意事項 19

2.3.4 NetWare 4.2 のインストール 20

2.3.5 8.4G を超える IDE ハードディスクご使用時の留意事項 22

2.3.6 NetWare 5 ご使用時の留意事項 23

2.4 仕様 24

2.4.1 本体仕様 24

2.4.2 内蔵ハードディスクユニットの仕様 27

3.　「GRANPOWER5000 モデル 280 (1998 年 10 月発表タイプ) 取扱説明書 (B1FH-4861-03)」の修正 28

1. 1999 年 10 月発表タイプの追加／変更点

GRANPOWER5000 モデル 280(1998 年 10 月発表タイプ）では、以前のタイプに比較して以下の点が異なります。

以下に、変更内容を示します。「参照箇所」に示すページを参照してください。

分類	変更内容	参照箇所	B1FH-4861-03 の参照ページ
OS	新規サポート OS • SBS 4.5 • NetWare 4.2	•「2.1 OS」(→ 2 ページ)	ー
		•「2.3.2 SBS4.5 のインストール」(→ 12 ページ)	184 ページ 200 ページ
		•「2.3.4 NetWare 4.2 のインストール」(→ 20 ページ)	182 ページ 220 ページ 222 ページ
内蔵オプション	新規サポート拡張カード • LAN カード (GP5-185) • クラスタキット 4（GP5S634） 標準搭載ハードディスクユニットの変更 内蔵ハードディスクユニット (SCSI) の変更	•「2.2 内蔵オプションベイ」(→ 3 ページ)	139 ページ 144 ページ
		•「2.2.3 拡張カード」(→ 9 ページ)	154 ページ
仕様	Pentium®III 600MHz タイプの追加 標準搭載ハードディスクユニットの変更 内蔵ハードディスクユニット（SCSI）の変更	•「2.4.1 本体仕様」(→ 24 ページ)	272 ページ
		•「2.4.2 内蔵ハードディスクユニットの仕様」(→ 27 ページ)	ー

以降に、各追加内容および変更内容の詳細を説明します。

「GRANPOWER5000 モデル 280(1998 年 10 月発表タイプ) 取扱説明書 (B1FH-4861-03)」の関連ページを各見出し横に記載しています。その関連ページの記事を読み替えていただきますようお願いいたします。

また、「3 「GRANPOWER5000 モデル 280 (1998 年 10 月発表タイプ) 取扱説明書 (B1FH-4861-03)」の修正」(→ 28 ページ）に誤記について説明しています。併せてお読みいただきますようお願いいたします。

2. 追加／変更内容の詳細

2.1 OS

本サーバでは SBS 4.5 を新規にサポートします。

これに伴い、SBS 4.5 タイプを設定します。

なお、SBS 4.5 のインストール方法については、「2.3.2 SBS4.5 のインストール」（→12 ページ）を参照してください。

SBS 4.5 タイプの添付品を以下に示します。

添付品名称	備考
本体装置	
キーボード	
マウス	
電源ケーブル（本体装置用）	
アダプタプラグ	電源コネクタ 2 ピン -3 ピン変換用
セットアップディスク #1 〜 #5	フロッピィディスク 5 枚
取扱説明書	
ハードウェアセットアップガイド	
Servervisor / Intel LANDesk ® Server Manager	CD-ROM1 枚
ServerWizard CD	CD-ROM1 枚、フロッピィディスク 1 枚
ServerWizard ソフトウェアガイド	
ServerWizard でインストールしよう！	
BIOS Environment Support Tools	フロッピィディスク 1 枚
FAX モデムカード CFG ファイル	フロッピィディスク 1 枚
LAN ドライバディスク	フロッピィディスク 1 枚
ハードディスクアクセスランプ点灯ケーブル	1 本、アレイシステム構成時に必要
5 インチ内蔵オプション用ガイドレール	2 セット 4 枚
5 インチ内蔵オプション用ミリネジ	8 個
5 インチ内蔵オプション用インチネジ	8 個、内蔵 TRAVAN NS ユニット用
フロントパネルキー	2 個
リストストラップ	1 個、作業前に必要です
保証書	
SBS 4.5	一式
Small Business Server 4.5 設定の手引き	
FAX モデムカード	本体実装済み
モジュラーケーブル	1 本
FAX モデムカード取扱説明書（追加説明書含む）	

2.2　内蔵オプションベイ

・標準搭載ハードディスクユニット（IDE**）が変更されています。**
・サポートする内蔵ハードディスクユニット（SCSI**）に「**GP5-HD9G3/GP5-HD8G1/GP5-HDH96/GP5-HDH83**」が追加されています。**
・ブランクディスクユニットの形状が変更されています。
・サポート拡張カードが追加／変更されています。

これに伴い、取扱説明書（B1FH-4861-03）の以下の記事が変更となります。

- 「5.5.3 ノンホットプラグベイへの内蔵ハードディスクユニットの取り付け／取り外し」
- 「5.5.4 ホットプラグベイへの内蔵ハードディスクユニットの取り付け／取り外し／交換」
- 「5.6.1 拡張カードの種類」の■ 搭載可能な拡張カード

以降に説明する記事に読み替えていただきますようお願いいたします。

2.2.1　ノンホットプラグベイへの内蔵ハードディスクユニットの取り付け／取り外し

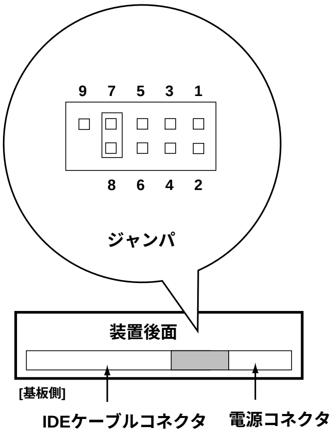
（ B1FH-4861-03 → 139 ページ）

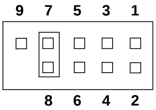
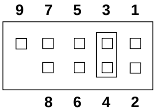
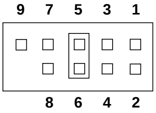
ノンホットプラグベイには、以下の 2 種類の内蔵ハードディスクユニットを 1 台だけ取り付けられます。

- IDE 規格の内蔵ハードディスクユニット（OS インストールタイプ標準搭載）
- SCSI 規格の内蔵ハードディスクユニット（GP5-HD9G3/GP5-HD8G1）

■ IDE 規格の内蔵ハードディスクユニットの設定

IDE 規格の内蔵ハードディスクユニットは、OS インストールタイプに標準で搭載されている装置で、特に設定を変更する必要はありません。
本サーバに搭載している内蔵ハードディスクユニットを以下に示します。

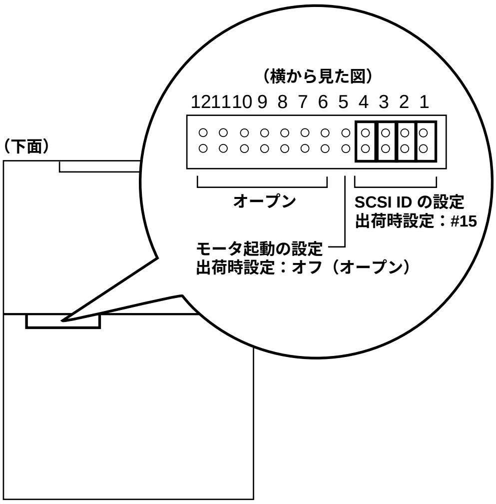


ジャンパ設定	設定内容
	マスタドライブ（工場出荷設定値）
	スレーブドライブ
	ケーブルセレクト

■ SCSI 規格の内蔵ハードディスクユニット（GP5-HD9G3/GP5-HD8G1）

内蔵ハードディスクユニット（GP5-HD9G3/GP5-HD8G1）は、ノンホットプラグベイの取り付け用のハードディスクユニットです。
SCSI-ID=0 になるように設定してください。
また、本ハードディスクユニットは、SCSI 終端の設定は不要です。
内蔵ハードディスクユニット以下の 2 箇所の設定を確認してください。

- SCSI-ID の設定
- モータ起動の設定



SCSI-ID の設定方法は以下の通りです。

SCSI-ID	SCSI ID **設定ピン**			
	ピン番号：4	**ピン番号：**3	**ピン番号：**2	**ピン番号：**1
#0	**オープン**	**オープン**	**オープン**	**オープン**
#1	**ショート**	**オープン**	**オープン**	**オープン**
#2	**オープン**	**ショート**	**オープン**	**オープン**
#3	**ショート**	**ショート**	**オープン**	**オープン**
#4	**オープン**	**オープン**	**ショート**	**オープン**
#5	**ショート**	**オープン**	**ショート**	**オープン**
#6	**オープン**	**ショート**	**ショート**	**オープン**
#7	**ショート**	**ショート**	**ショート**	**オープン**
#8	**オープン**	**オープン**	**オープン**	**ショート**
#9	**ショート**	**オープン**	**オープン**	**ショート**
#10	**オープン**	**ショート**	**オープン**	**ショート**
#11	**ショート**	**ショート**	**オープン**	**ショート**
#12	**オープン**	**オープン**	**ショート**	**ショート**
#13	**ショート**	**オープン**	**ショート**	**ショート**
#14	**オープン**	**ショート**	**ショート**	**ショート**
#15	**ショート**	**ショート**	**ショート**	**ショート**

モータ起動の設定方法は以下の通りです。

	モータ起動設定ピン
出荷時設定	オープン

ポイント

- **モータ製品の起動は、必ず出荷時設定の「オープン」のままとしてください。**
- **サーバ本体の** SCSI Select **ユーティリティにおいて、本製品に対する** " Send Start Unit Command" **の設定が** " yes" **であることを確認してください。**"no" **に設定されている場合、サーバ起動時に** "Device connected, but not ready" **のメッセージが表示され、正常に起動しないことがあります。**

2.2.2 ホットプラグベイへの内蔵ハードディスクユニットの取り付け／取り外し／交換

（ B1FH-4861-03 → 144 ページ）

ホットプラグベイには、内蔵ハードディスクユニット（GP5-HDH96/GP5-HDH83）を最大 3 台まで取り付けることができます。

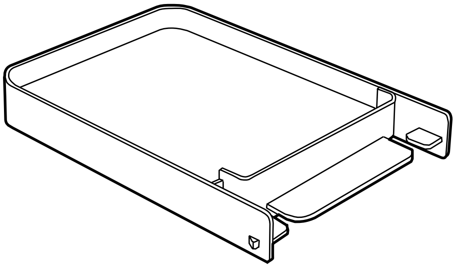
ホットプラグベイは、SCSI-ID の設定が不要です。

ホットプラグベイには、内蔵ハードディスクユニットとのインタフェースに SCA2（Single Connector Attachment 2）コネクタを採用しています。電源ケーブルと信号ケーブルを一体化しているため、煩わしいケーブル接続が一切不要となります。

各ディスクベイへの取り付けについて以下に示します。

■ ホットプラグベイへの取り付け手順

本サーバでは、以下のブランクディスクユニットが取り付けられている機種があります。

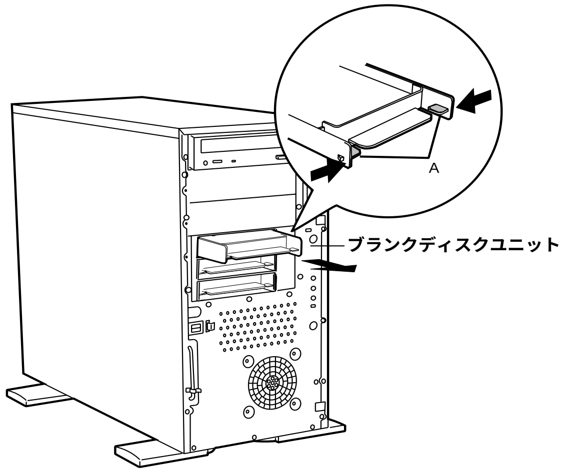


上図のブランクディスクユニットが取り付けられている場合の、取り外し手順を以下に示します。

1 電源を切断し、フロントパネルを取り外します。
（「5.2 フロントパネル・サイドカバーの取り外し」を参照）

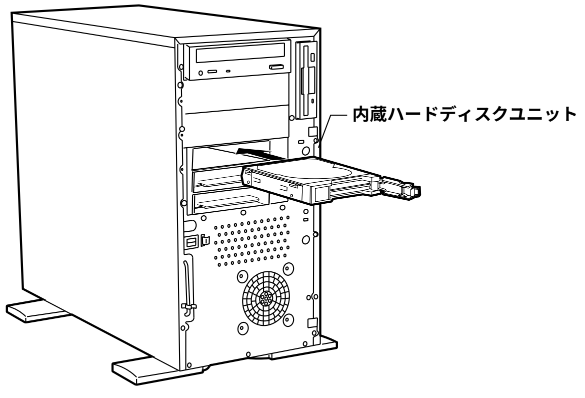
2 ホットプラグベイのブランクディスクユニットを取り外します。
アレイタイプ以外は、ホットプラグベイにブランクディスクユニットが取り付けられています。

ブランクディスクユニットのツメ（図中 A）を内側に押しながら手前にゆっくりと引き出します。



3 ホットプラグベイに内蔵ハードディスクユニットを取り付けます。

内蔵ハードディスクユニットのプラスチックレバーを開いた状態で、搭載するホットプラグベイに内蔵ハードディスクユニットを図中の矢印の方向に押し込みます。



4 プラスチックレバーをカチッと音がするまで左側に閉じます。

■ ホットプラグベイからの取り外し手順

1 **電源を切断し、フロントパネルを取り外します。**

2 **内蔵ハードディスクユニットを取り外します。**

取り出したい内蔵ハードディスクユニットのプラスチックレバーを手前に引っぱり、内蔵ハードディスクユニットをベイから取り外します。

取り外したブランクディスクは、保管しておいてください。

2.2.3　拡張カード

新規に以下のカードをサポートします。
- LAN **カード**（GP5-185)
- **クラスタキット** 4 (GP5S634)

これに伴い、取扱説明書（B1FH-4861-03）の以下の記事が変更となります。

- 「5.6.1 拡張カードの種類」

以降に説明する記事に読み替えていただきますようお願いいたします。

■ 搭載可能な拡張カード

（ B1FH-4861-03 → 154 ページ）

本サーバに搭載可能な拡張カードを以下に示します。

拡張カード	型名	バス	搭載最大枚数	備考
SCSI アレイコントローラカード	GP5-141A	PCI	2	内蔵・外付けアレイシステム用
SCSI アレイコントローラカード	GP5-142	PCI	1	内蔵アレイシステム用、 GP5-143 と同時搭載不可
SCSI アレイコントローラカード	GP5-143	PCI	1	内蔵アレイシステム用 GP5-142 と同時搭載不可
SCSI カード	GP5-125	PCI	3 合計最大 3	外付け SCSI 装置用、GP5-ML301 接続用
LAN カード (10BASE-5/2/T)	GP5-181	PCI	3	
LAN カード (1000BASE-SX)	GP5-183	PCI	1	
LAN カード (100BASE-TX/10BASE-T)	**GP5-185**	**PCI**	**3**	
ATM-LAN カード	FMV-187	PCI	1	
MSL キット	FMS-193	PCI	1	
クラスタキット 4	**GP5S634**	**PCI**	**1** 合計最大 3	
RS232C カード	GP5-162	PCI	2	OS が NetWare の場合は最大 1、 FMV-165 との同時搭載不可
ISDN カード	GP5-165	PCI	2	FMV-166 との同時搭載不可
通信カード V/X	GP5-163	PCI	2	FMV-167 との同時搭載不可
ISDN 接続 G3/G4FAX 通信カード	GP5-161	PCI	3	
サーバモニタモジュール	GP5-SM102	PCI	1 合計最大 3	GP5-SM101 と同時搭載不可、 LDSM V6.0 が必須
サーバモニタモジュール	GP5-SM101	ISA	1	GP5-SM102 との同時搭載不可
RS232C カード	FMV-165	ISA	2	GP5-162 との同時搭載不可
ISDN カード	FMV-166	ISA	2	GP5-165 との同時搭載不可
通信カード V/X	FMV-167	ISA	2	GP5-163 との同時搭載不可
FAX モデムカード	FMV-FX531	ISA	2	
音声処理カード	FMV-FH718	ISA	1 合計最大 2	

■ 拡張カードの搭載順について

拡張カードは、次の表の〇付き数字の順にスロットを使用してください。

スロット	**サーバモニタモジュール** GP5-SM102	SCSI **アレイコントローラカード**		SCSI **カード** GP5-125	LAN **カード** GP5-181 GP5-183 **GP5-185** ATM-LAN **カード** FMV-187 MSL **キット** FMS-193 **クラスタキット** 4 **GP5S634**	**その他の** PCI **カード**
		GP5-143 GP5-142 (*1)	GP5-141A			
PCI **スロット** 1	①	−	−	③	①	①
PCI **スロット** 2	−	①	①	②	②	②
PCI **スロット** 3	−	−	②	①	③	③

−：搭載不可を示す

*1：GP5-142 と GP5-143 は同時搭載不可

2.3　ソフトウェアのインストール

本サーバは、SBS 4.5 を新規にサポートしています。以下の手順にしたがって SBS 4.5 をインストールしてください。

また、これに伴い、本体取扱説明書 (B1FH-4861-03) の以下の記事が変更となります。

- 「6.1 OS インストール時の注意」の「■ 使用するドライバ」

以降に説明する記事に読み替えていただきますようお願いいたします。

2.3.1　使用するドライバ

(B1FH-4861-03 → 184 ページ)

本サーバで、オンボード LAN やオンボード SCSI、および拡張カードを使用する場合には、それぞれ以下に示すドライバをインストールしてご使用ください。

OS	Windows NT Server 4.0 SBS4.0 SBS4.5	IntraneWare NetWare 3.3J	NetWare 5
標準 I/O			
グラフィックコントローラ	本サーバ添付のディスプレイドライバ (セットアップディスク #4)	OS 標準提供ドライバ	OS 標準提供ドライバ
CD-ROM	OS 標準提供ドライバ	本サーバ添付の CD-ROM ドライバ (セットアップディスク #4)	OS 標準提供ドライバ
LAN			
オンボード LAN	本サーバ添付の LAN ドライバ (GP5-185 搭載時は、GP5-185 添付の LAN ドライバ)	本サーバ添付の LAN ドライバ (GP5-185 搭載時は、GP5-185 添付の LAN ドライバ)	OS 標準提供ドライバ
LAN カード (GP5-181)	本サーバ添付の LAN ドライバ (GP5-185 を同時に搭載した時は、GP5-185 添付の LAN ドライバ)	本サーバ添付の LAN ドライバ (GP5-185 を同時に搭載した時は、GP5-185 添付の LAN ドライバ)	OS 標準提供ドライバ
クラスタキット (GP5S634)	LAN カードに添付のドライバ (GP5-185 を同時に搭載した時は、GP5-185 添付の LAN ドライバ)	−	−
その他の LAN カード	LAN カードに添付のドライバ	LAN カードに添付のドライバ	OS 標準提供ドライバ
SCSI			
オンボード SCSI	本サーバ添付の SCSI ドライバ (セットアップディスク #3)	本サーバ添付の SCSI ドライバ (セットアップディスク #3)	OS 標準提供ドライバ
SCSI カード	SCSI カードに添付のドライバ クラスタ構成時は OS 標準提供ドライバ	SCSI カードに添付のドライバ クラスタ構成時は OS 標準提供ドライバ	OS 標準提供ドライバ
SCSI アレイコントローラカード	SCSI アレイコントローラカードに添付のドライバ	SCSI アレイコントローラカードに添付のドライバ	SCSI アレイコントローラカードに添付のドライバ
拡張			
LAN/SCSI カード以外の拡張カード	カード添付のドライバ	カード添付のドライバ	OS 標準提供ドライバ

2.3.2 SBS4.5 のインストール

(B1FH-4861-03 → 200 ページ)

ここでは、SBS 4.5 を初めてサーバにインストールする方法について説明します。

■ インストール時の留意事項

- インストールを開始する前に、SBS 4.5 に添付の「Small Business Server ファーストステップガイド」をご一読ください。
- FAX モデムカードを搭載する場合の注意事項
  FAX モデムカード (FMV-FX531) を使用する場合は、SBS 4.5 をインストールする前に、FAX モデムカードのシステム資源などを設定する必要があります。設定方法については、「5.6.10 FAX モデムカード」を参照してください。
- FAX モデムカードドライバをインストール時の注意事項
  SBS 4.5 インストール後、FAX モデムカード (FMV-FX531) をインストールするときは、本サーバに添付されている「内蔵 FAX モデム CFG ファイル」のフロッピィディスクを使用してください。FAX モデムカードに添付されている「Microsoft® Windows® 95 FMV-FX531 INF file」フロッピィディスクは使用しないでください。このフロッピィディスクは Windows95 用です。
- SBS 4.5 のインストールにはディスク容量 2GB 以上の空き容量が必要です。

■ インストール手順

以下に、SBS 4.5 をインストールする手順について説明します。SBS 4.5 のインストールは、Windows NT Server 4.0 と基本的に同じです。ここでは、Windows NT Server 4.0 のインストール手順と異なる箇所を中心に説明します。

以下の説明では、次の装置を対象にしています。

- サーバ本体に標準実装の SCSI ホストアダプタ配下に SBS 4.5 をインストールするハードディスクが接続されており、またサーバ本体内にネットワークカードおよび FAX モデムカード (FMV-FX531) が装着されている装置を対象にしています。
- SCSI アレイコントーラカードをご使用の場合
  サーバ本体に実装の SCSI アレイコントローラカード配下に SBS 4.5 をインストールするハードディスクが接続されており、またサーバ本体内にネットワークカードおよび FAX モデムカード (FMV-FX531) が装着されている装置を対象にしています。

1 **電源投入前に SBS 4.5 セットアップディスク #1 をセットします。**

SBS 4.5 セットアップディスク # １をフロッピィディスクドライブにセットし、サーバに電源を入れます。
このとき、CD-ROM ドライブに CD-ROM が入っていないことを確認してください。

2 **以降は、Windows NT Server 4.0 のインストール手順とほぼ同様です。**

「6.3.3 Windows NT Server 4.0 のインストール」の「■インストール手順」の手順 2 〜 8 を参照してください。

3 Windows NT **をインストールするハードディスクユニットのパーティションを選択する旨のメッセージが表示されます。**

画面に従って、2GB のパーティションを作成します。

必ず NTFS ファイルシステムでフォーマット後、インストールを続行してください。

4 **メッセージに従って、インストールを続行してください。**

5 SCSI **ドライバのフロッピーディスクを要求する画面が表示されます。**

次のラベルのついたディスクをドライブ A: **に挿入してください**
「Symbios Logic PCI (53c8xx)」

が表示されたら、本体添付のセットアップディスク #3 をフロッピィディスクドライブにセットして [Enter] キーを押してください。

6 SCSI **アレイコントローラカードをご使用の場合、**SCSI **アレイコントローラカードドライバのフロッピーディスクを要求する画面が表示されます。**

次のラベルのついたディスクをドライブ A: **に挿入してください**
[GP5-141A/GP5-142 **搭載時**]
「DAC960 Software Kit Version 1.06」
[GP5-143 **搭載時**]
「GP5-143/144/145/146 Windows NT Drivers Disk」

が表示されたら、SCSI アレイコントローラカードソフトウェアキットまたはドライバディスクをフロッピィディスクドライブにセットして [Enter] キーを押してください。

7 **自動的に再起動します。**

このとき、再起動処理が開始したらすぐに、フロッピィディスクドライブからフロッピィディスクを取り出してください。

8 **再起動後、画面に従ってインストールを続行してください。**

再起動後、「無効なディスプレイ設定」画面が表示されますが、セットアップを続行してください。

なお、ディスプレイドライバを入れ替えるまでこのメッセージが表示されますが、インストールには問題ありません。

9 FAX **モデムカードドライバをインストールします。**

セットアップ中に FMV-FX531 を搭載した場合、COM3 に「未検出のモデム」として検出します。

- [変更] をクリックします。
- RAS の再編成に関するメッセージが表示されますので、[OK] をクリックします。
- モデムのプロパティのダイアログボックスが表示されますので、[削除] をクリックし続いて [はい] をクリックします。
- [追加] をクリックし、「モデムを一覧から選択するので検出しない」をチェックし、[次へ] をクリックします。
- [ディスク使用] をクリックし、本体添付の「内蔵 FAX モデム CFG ファイル」フロッピィディスクをフロッピィディスクドライブにセットし、[OK] をクリックします。
- 「FMV-FX531」を選択し、[次へ] をクリックします。

- 「選択したポート」の「COM3」を選択し [次へ] をクリックします。
- 「システムを再起動する必要があります」というメッセージが表示されますので、[OK] をクリックします。
- 「所在地情報」のダイアログボックスが表示されますので、必要な情報を入力し、[次へ] をクリックします。
- [完了] をクリックします。
- [閉じる] をクリックし、「モデムのプロパティ」のページを閉じます。
- ダイヤルネットワークの構成に関するダイアログボックスが表示されますので、「未検出のモデム」を選択し、[削除] をクリックします。
- ポート COM3 を削除するかどうかのメッセージが表示されますので、[はい] をクリックし、続いて [追加] をクリックします。
- 「RAS デバイスの追加」のダイアログボックスが表示されますので、「COM3-FMV-FX531」を選択し [OK] をクリックし、続いて [続行] をクリックします。
- 今すぐ再起動するかどうかのメッセージが表示されますので、[はい] をクリックします。
- 再起動処理が開始したらすぐにフロッピーディスクを取り出してください。

> ⚠注意
>
> **再起動時の注意**
> インストールの途中で、セットアッププログラムが再起動するようにメッセージを表示します。この場合、1 分ほど待ってから、再起動してください。

10 再起動後、本体添付の LAN ドライバをインストールします。

- セットアップ中に「ハードウェア確認」のダイアログボックスが表示されましたら、[変更] をクリックします。
- コントロールパネルが表示されますので、「ネットワーク」をダブルクリックします。
- 「ネットワーク」ダイアログボックスの「アダプタ」タブを選択し、現在表示されている「Intel 82557-based Ethernet PCI Adapter」を選択し、[削除] をクリックします。
- コンピュータを再起動します。
- 再起動後、LAN ドライバが無いためイベントログに複数のエラーが記録されますが無視してください。再度「ハードウェアの確認」のダイアログボックスが表示されましたら、[変更] をクリックします。
- コントロールパネルが表示されますので、「ネットワーク」をダブルクリックします。
- 「ネットワーク」ダイアログボックスの「アダプタ」タブを選択し、[追加] をクリックします。
- [ディスク使用] をクリックし、本体添付の LAN ドライバの組み込みを行ってください。

- LAN ドライバのインストール方法に関する詳細は、それぞれ以下を参照してください。

— LAN カード（GP5-185）を同時に搭載する場合は、LAN カード（GP5-185）に添付のマニュアル

— LAN カード（GP5-185）を同時に搭載しない場合は、「6.5.1 WindowsNT Server 対応 LAN ドライバ」

TCP/IP のパラメータには、以下の値を設定してください。

IP アドレス　：10.0.0.2
サブネット マスク：255.255.255.0
プライマリ WINS サーバー：10.0.0.2
セカンダリ WINS サーバー：10.0.0.2

- 今すぐ再起動するかどうかのメッセージが表示されますので、[はい] をクリックします。
- 再起動処理が開始したらすぐにフロッピーディスクを取り出してください。

11　**再起動後、本体添付のディスプレイドライバをインストールします。**

⚠注意

再起動時の注意
インストールの途中で、セットアッププログラムが再起動するようにメッセージを表示します。この場合、1 分ほど待ってから、再起動してください。

- セットアップ中に「ハードウェア確認」のダイアログボックスが表示されましたら、[変更] をクリックします。
- コントロールパネルが表示されますので、「画面」をダブルクリックします。
- 「無効なディスプレイ設定」画面が表示されていますので [OK] をクリックします。
- [ディスプレイの種類] － [変更] － [ディスク使用] をクリックします。
- サーバ本体添付のセットアップディスク #4 をフロッピードライブに挿入し、[参照] をクリックします。
- 「NT40」ディレクトリから「atirage.inf」を選択し、[開く] をクリックします。
- [OK] をクリックし「ATI 3D RAGE IIC AGP」を選択し、[OK] をクリックします。
- 「続行しますか」というメッセージが表示されますので、[はい] をクリックします。
- ファイルコピーが終了した後、[閉じる] をクリックし、続いて [適用] をクリックします。
- 再起動を促すメッセージが表示されますので、[はい] を選択します。
- 再起動後、再度「ハードウェアの確認」のダイアログボックスが表示されましたら、[変更] をクリックします。
- コントロールパネルが表示されますので、「画面」をダブルクリックします。
- 解像度、および表示色数を以下のとおりに設定してください。

カラーパレット：65536 **色**
デスクトップ領域：800 × 600

- [テスト] ボタンを押し、テスト表示を行います。
- 正しく表示されたことを確認し、[はい] をクリックします。
- [適用] をクリックした後、[OK] をクリックします。
- セットアップ画面に戻り、画面の指示に従ってインストールを続行します。
- 今すぐ再起動するかどうかのメッセージが表示されますので、[はい] をクリックします。
- 再起動処理が開始したらすぐにフロッピーディスクを取り出してください。

> **注意**
> **再起動時の注意**
> インストールの途中で、セットアップアップログラムが再起動するようにメッセージを表示します。この場合、1 分ほど待ってから、再起動してください。

12 **自動的にサービスパック４のインストールが開始され、完了すると再起動します。**
再起動後、SBS 4.5 セットアップの画面に従って続行します。

13 **ハードディスクのモードを変更します。**
本サーバに内蔵ハードディスクユニット (IDE) を搭載している場合は、UltraDMA/33 モードに変更することができます。変更する場合は、「6.3.8 内蔵ハードディスクユニット (IDE) の UltraDMA/33 モードへの変更について」を参照して変更してください。

14 **運用に入る前に「システム修復ディスク」を作成することをお勧めします。**
作成方法は、後述の「■システム修復ディスクについて」を参照してください。

■ SBS 4.5 インストール後の注意事項

以下に、SBS 4.5 インストール後の注意事項を示します。

- SBS 4.5 には Windows NT Service Pack 3 以前を絶対にインストールしないでください。誤動作の原因になります。
- FAX モデムカードを使用する COM ポートの設定について

  SBS 4.5 インストール直後は、シリアルポートに COM4 は設定されていません。FAX モデムカードを COM4 で使用する場合は、COM4 を追加設定する必要があります。ただし、ICU および FAX モデムカード側で事前に COM4 を設定後に、SBS 4.5 をインストールした場合は、異なる COM ポートにインストールされてしまいます。その場合は、いったん FAX モデムカードを削除し、COM4 を追加設定し、再度 FAX モデムカードを追加してください。また、FAX プリンタを使用する場合も、FAX モデムカードと同様に、FAX プリンタをいったん削除してから、追加してください。したがって、SBS 4.5 で COM4 を使用する場合は、SBS 4.5 をインストールしてから、装置側の COM4 の設定を行う必要があります。以下に、COM4 の追加設定方法を示します。

1 **「コントロールパネル」から「シリアルポート」を選択します。**

現在使用できるシリアルポートの一覧が表示されます。

2 **「追加** (A)...**」を選択します。**

「新しいポートの詳細設定」画面が表示されます。

3 I/O **ポートアドレス、割り込み番号** (IRQ) **を正しく設定し、**[OK] **を選択します。**

ICU で設定した値および FAX モデムカードに設定した値と合わせます。

4 **再起動するかどうかのメッセージが表示されますので、「再起動する」を選択し、再起動します。**

FAX モデムおよび FAX プリンタの追加／削除方法の詳細については、SBS 管理コンソールのオンラインガイドで、FAX の項目を参照してください。

■ システム修復ディスクについて

SBS 4.5 のセットアップ後、またはシステム構成の変更後に、「システム修復ディスク」を作成してください。万一、Windows NT システムファイル、システム構成、およびスタートアップ時の環境変更などが損傷を受けた場合は、修復ディスク上に保存した修復情報を使ってこれらを再構築できます。

● 修復ディスクの作成方法

■ [用意するもの]

- 2HD のブランクフロッピィディスク 1 枚

1 **フロッピィディスクに「システム修復ディスク」というラベルを貼り、フロッピーディスクドライブにセットします。**

2 Small Business Server **コンソールの** [**その他のタスク**]―[**ディスクの管理**]―[**システム修復ディスクの作成**] **をクリックします。「システム修復ディスクを作成する」というヘルプが開きますので、ヘルプの指示に従ってシステム修復ディスクの作成を行ってください。**

● システムの修復方法

■ [用意するもの]

- 2HD のブランクフロッピィディスク 1 枚
- SBS 4.5 Disc1
- SBS 4.5 セットアップディスク 3 枚
- システム修復ディスク（上記で作成したもの）

■ [SBS 4.5 のシステムを修復する前に]

SBS 4.5 に添付されている「セットアップディスク #2」ではシステムの修復ができません。
以下の手順に従って、「セットアップディスク #2」を準備します。

1 2HD **フロッピィディスクに「システム修復用セットアップディスク** #2**」というラベルを貼り、フォーマットします。**

2 **「システム修復用セットアップディスク #2」に、SBS のセットアップディスク #2 を複写してください。**

3 **「システム修復用セットアップディスク #2」内の「WINNT.SIF」ファイルを削除してください。**

ここで作成した「システム修復用セットアップディスク #2」をセットアップディスク #2 の代わりに使用して、システムを修復してください。

■ [システムの修復方法]

1 **電源投入前に作成したセットアップディスク #1 を準備します。**

セットアップディスク #1 をフロッピィディスクドライブにセットし、サーバに電源を投入します。

2 **Windows NT Server セットアップ初期画面が表示されます。**

セットアップ初期画面の指示に従って、セットアップディスクの交換を行います。

3 **Windows NT Server セットアップの「セットアップへようこそ」の画面で、「R」キーを押して修復を選択します。**

セットアップ画面のメッセージに従って、システムを修復します。

CD-ROM ドライバ、および SCSI ドライバのインストールについては、「■インストール手順」を参照してください。

4 **次のメッセージが表示されます。**

> **Windows NT セットアップ**
> **[ファイル名] は、セットアップが Windows NT をインストールしたときにコピーしたオリジナルのファイルではありません。**

ここでは必ず [Esc] キーを押し、ファイルをスキップしてください。

もし、[A] キー、または [Enter] キーを押し、ファイルを上書きしてしまうと、システムは正常に動作しなくなり、再インストールしなければなりません。

5 **自動的に再起動します。**

ポイント

- **システムの修正を行うと、情報によっては新規インストール状態に戻ってしまう場合があります。システムの修復後、再設定する必要があります。**
- **SBS 4.5 標準添付のアプリケーションについて、再インストールが必要になる場合があります。**
- **システムファイル、システム情報の損傷が大きい場合は、SBS 4.5 の再インストールが必要になる場合があります。その場合は、「■インストール手順」に従って再インストールしてください。**
- **システムのコンポーネントを変更したり、追加したりした場合、その度に修復ディスクを作成しなおしてください。**

■ 管理ソフトウェアのインストール

SCSI アレイコントーラカードをご使用の場合、管理ソフトウェアをインストールします。

● **管理ソフトウェアのスタートアップグループへの登録**

SCSI アレイコントローラカードに添付のマニュアルに従って、管理ソフトウェアをインストールしてください。

● **管理ソフトウェアについて**

管理ソフトウェアには、DACMON（Disk Array Controller Monitor）ユーティリティと DACADM（Disk Array Controller Administration）ユーティリティがあります。

DACMON ユーティリティは、アレイ状況の監視を行うためのソフトウェアです。

DACADM ユーティリティは、アレイの管理を行うためのソフトウェアです。

詳細は、SCSI アレイコントローラカードに添付の取扱説明書を参照してください。

2.3.3　その他の留意事項

「6.3.4 Windows NT Server 4.0 のインストール (SCSI アレイコントローラカード使用時)」および「6.3.6 SBS4.0 のインストール (SCSI アレイコントローラカード使用時)」内の記事を以下のように読み替えていただきますようお願いいたします。

「GP5-143」搭載時は、以下の SCSI アレイコントローラディスクを使用してください。

　　「GP5-143/144/145/146 Windows NT Drivers Disk」

2.3.4 NetWare 4.2 のインストール

本サーバは、NetWare 4.2 を新規にサポートしています。

これに伴い、取扱説明書（B1FH-4891-02）の以下の記事が変更となります。

- 「6.1 OS インストール時の注意」
- 「6.4.5 IntranetWare のインストール」の「■インストール時の留意事項」
- 「6.4.5 IntranetWare のインストール」の「■ハードディスクの区画設定と DOS 基本ファイルのコピー」
- 「6.4.5 IntranetWare のインストール」の「■ OS のインストール」

以降に説明する記事に読み替えていただきますようお願いいたします。

「6.1 OS インストール時の注意」

（ B1FH-4861-03 → 182 ページ）

以下の記事を追加していただきますようお願いいたします。

■ **インストールできる OS**

IntranetWare と表記している部分は、特に断りのない限り、NetWare4.2 を含みます。

「6.4.5 IntranetWare のインストール」の「■ インストール時の留意事項」

（ B1FH-4861-03 → 220 ページ）

以下の記事を追加していただきますようお願いいたします。

- NetWare4.2 インストール時のメモリ認識

NetWare4.2 インストール時に、搭載メモリの全てを認識できない場合があります。その場合は、インストール中の、SERVER.EXE 起動後、［ALT］＋［ESC］でコンソール画面に移動して、REGISTER MEMORY コマンドでメモリを認識させます。

REGISTER MEMORY コマンドについては、NetWare のオンラインマニュアルを参照してください。

「6.4.5 IntranetWare のインストール」の「■ハードディスクの区画設定と DOS 基本ファイルのコピー」

（ B1FH-4861-03 → 220 ページ）

以下の記事を追加していただきますようお願いいたします。

NetWare 4.2 の場合は以下の手順にしたがってください。

1 **ハードディスクの区画設定を行います。**

NetWare4.2 添付のライセンスディスクをサーバ本体のフロッピィディスクドライブにセットし、電源を投入します。DOS が起動し、インストーラが起動します。

2 **メッセージに従い、基本 DOS 領域を作成し、DOS 基本ファイルのコピーを行います。**

3 CONFIG.SYS **ファイル** /AUTOEXEC.NCF **ファイルを編集します。**

インストール中の CONFIG.SYS / AUTOEXEC.BAT 編集画面で、それぞれのファイルの最後に以下の行を追加し、保存します。

```
[CONFIG.SYS]
DEVICE=C:¥ATAPIMGR.SYS
DEVICE=C:¥SR_ASPI.SYS /D:CD_01

[AUTOEXEC.BAT]
NWCDEX /D:CD_01 /M:32
```

4 CD-ROM **用ドライバをインストールします。**

フロッピィディスクを本体添付のセットアップディスク #4 に交換し、以下のコマンドを入力します。

```
A:¥>copy a:¥cdrom¥sr_aspi.sys c:¥ [Enter]
A:¥>copy a:¥cdrom¥atapimgr.sys c:¥ [Enter]
```

5 **本体添付のセットアップディスク** #4 **を取り出し、再起動します。**

「6.4.5 IntranetWare **のインストール」の「■** OS **のインストール 手順** 3**」**

(B1FH-4861-03 → 222 ページ)

以下の記事に読み替えていただきますようお願いいたします。

3 IntranetWare **のインストーラを起動します。**

以下のコマンドを入力します。

[NetWare4.2 の場合]

```
D:¥>install [Enter]
```

[IntranetWare の場合]

```
D:¥>a:install english [Enter]
```

2.3.5　8.4G を超える IDE ハードディスクご使用時の留意事項

NetWare 3.2J / IntranetWare にて IDE 8.4GB を超えるハードディスクに OS をインストールする場合は、インストール時にパッチモジュールの適用が必要です。

これに伴い、取扱説明書（B1FH-4861-03）の以下の記事が変更となります。

- 「6.4.5 IntranetWare のインストール」の「■インストール時の留意事項」
- 「6.4.7 NetWare3.2J のインストール」の「■ NetWare3.2J インストール前の留意事項」

以下の記事を追加していただきますようお願いいたします。

「6.4.5 IntranetWare のインストール」の「■ IntranetWare インストール時の留意事項」

（ B1FH-4861-03 → 220 ページ）

以下の記事を追加していただきますようお願いいたします。

- 8.4G を超える IDE ハードディスクご使用時の留意事項
  8.4GB を超える IDE ハードディスクに IntranetWare をインストールする場合は以下の手順で行ってください。

1 **IntranetWare 用の最新パッチモジュール (IWSP6BJ 以降) 内の IDEHD.CDM ファイルをハードディスクの任意のディレクトリ（本説明では、「C」ドライブのルートディレクトリ）にコピーします。**
  `C:¥>copy d:¥spack6a¥products¥odi331¥system¥idehd.cdm c:¥ [Enter]`（CD-ROM ドライブが D ドライブで、パッチモジュール IWSP6BJ を使用した場合）

2 **取扱説明書の手順に従い、インストールを開始します。**

3 **ディスクドライバ選択画面で、[ALT]+[ESC] キーでサーバコンソール画面を切り替えます。**

4 **以下のコマンドを入力します。**
  `load c:¥idehd.cdm [Enter]`

5 **[ALT]+[ESC] キーでインストール画面に戻ります。取扱説明書の手順に従い、そのまま最後までインストールを続行します。**

6 **インストールを完了したら、DOS プロンプトにて idehd.cdm ファイルをサーバのブートディレクトリにコピーします。**
  `c:¥>copy c:¥idehd.cdm c:¥nwserver [Enter]`

「6.4.7 NetWare3.2J のインストール」の「■ NetWare 3.2J のインストール前の留意事項」

（ B1FH-4861-03 → 229 ページ）

以下の記事に読み替えていただきますようお願いいたします。

SCSI ホストコントローラ配下のハードディスクあるいは、8.4GB を超える IDE コントローラ配下のハードディスクに NetWare3.2J をインストールする場合は、インストールを行う前に、以下のパッチモジュールを適用する必要があります。

- NWPA_UP
- OS パッチ（NetWare3.12J 2000 年対応パッチモジュールパック 2 に含まれている 312PTDJ あるいはそれ以降）

パッチモジュール適応方法につきましては、NWPA_UP に含まれている README ファイルを参照してください。なお、8.4GB を超える IDE コントローラ配下のハードディスクの場合は以下のディスクドライバをロードしてください。

（サーバ名）：`load ideata.ham int=e port=1f0 [Enter]`

2.3.6 NetWare 5 ご使用時の留意事項

NetWare 5 にてオプションの SCSI カードまたは SCSI アレイコントローラカードを追加搭載時にメッセージが表示される場合があります。

これに伴い、取扱説明書（B1FH-4861-03）の以下の記事が変更となります。

- 「6.4.3 NetWare5 のインストール」の「■インストール後の留意事項」

以下の記事を追加していただきますようお願いいたします。

- オプションカード自動認識時のメッセージ
  オプションの SCSI カードまたは SCSI アレイコントローラカードを追加搭載すると、ハードウェアの自動検出時に以下のメッセージが表示される場合があります。

  メッセージ
  「nwconfig.nlm はデバイスのスキャンに必要な NWPA.NLM の問い合わせ関数を登録できませんでした。CDM を自動検出できません。「追加ドライバのロード」を選択して CDM を選んでください。(nwconfig-5-527)」

  その場合は、NetWare の STARTUP.NCF ファイルに以下のロード文を追加し、サーバを再起動してください。

  ```
  load scsihd.cdm
  ```

2.4　仕様

1999 年 10 月発表タイプ／ 1999 年 8 月発表タイプの本体仕様および内蔵ハードディスクユニットの仕様を以下に説明します。

2.4.1　本体仕様

（ B1FH-4861-03 → 272 ページ）

本サーバの仕様は、次のとおりです。
他の周辺装置の仕様については、各装置に添付の取扱説明書をご覧ください。

GRANPOWER5000 モデル 280 (発表月：1999 年 10 月)

タイプ		FD タイプ	NT4.0 タイプ	NT4.0 SSP タイプ	SBS 4.5 タイプ	NT4.0 タイプ（アレイ）	
						18.2GB タイプ	36.4GB タイプ
型名	Pentium ®III 600MHz(512KB)	GP528Y1A5	GP528Y1N5	タイプ 1：GP528Y1ND5	GP528Y1M5	GP528Y1T5	GP528Y1V5
	Pentium ®III 550MHz(512KB)	GP528V1A5	GP528V1N5	タイプ 1：GP528V1ND5	GP528V1M5	GP528V1T5	GP538V1V5
	Pentium ®III 500MHz(512KB)	GP528N1A5	GP528N1N5	タイプ 1：GP528N1ND5	GP528N1M5	GP528N1T5	GP528N1V5
CPU	周波数 / 2 次キャッシュ	Pentium ®III 500MHz、550MHz、600MHz / 2 次キャッシュ 512KB					
	マルチ数	1（最大 2）					
メモリ	標準	128MB（128MB DIMM × 1 枚）					
	増設単位	64 / 128 / 256 MB（DIMM 1 枚構成）					
	内蔵最大	1GB（256MB × 4 スロット）					
ビデオ RAM 容量 グラフィックス		2MB VGA チップ：ATI RAGE II C (AGP) 640 × 480、800 × 600、1024 × 768　表示色：解像度、OS により異なる					
サーバモニタモジュール		オプション					
内蔵 5 インチベイ		3 ベイ（標準搭載含む）　種類：CD-ROM ユニット、DAT ユニット、光磁気ディスクユニット、1/4 インチ CRMT ユニット、TRAVAN NS ユニット					
	標準搭載	32 倍速 CD-ROM（IDE）					
内蔵 3.5 インチハードディスクベイ		4 ベイ（標準搭載ハードディスクユニットを含む）　内 3 ベイホットプラグ対応					
	標準	オプション	13.6GB × 1（IDE）			9.1GB × 3（SCSI）	18.2 × 3（SCSI）
	増設単位	9.1GB / 18.2GB（Ultra Wide SCSI）					
	内蔵最大	18.2 × 4 ＝ 72.8GB					
SCSI アレイ		オプション				標準	
バックアップキャビネット		オプション					
拡張スロット		PCI × 3、ISA × 2					
フロッピィディスクドライブ		3.5 インチ（2 モード 1.44MB/720KB）標準搭載					
インタフェース		LAN（100BASE-TX / 10BASE-T）× 1（マザーボード標準搭載）、シリアル× 2、パラレル× 1、キーボード、マウス、モニタ					
キーボード／マウス		標準添付					
外形寸法		横幅 219mm ×奥行き 549mm ×高さ 456mm					
質量		最大 25Kg					
消費電力／発熱量		最大 250W（最大 900KJ/h）					
電源		AC100V(50/60Hz) ／ 2 極接地型					
エネルギー消費効率 (*)		Pentium ®III 600MHz 搭載タイプ : Q 区分、0.072 / Pentium ®III 550MHz 搭載タイプ : Q 区分、0.078 Pentium ®III 500MHz 搭載タイプ : Q 区分、0.086					

* : エネルギー消費効率とは、省エネ法で定める測定方法により、測定した消費電力を省エネ法で定める複合理論性能で除したものです。

本サーバの仕様は、改善のため予告なしに変更することがあります。あらかじめ、ご了承ください。

GRANPOWER5000 モデル 280 (発表月：1999 年 8 月)

タイプ		SBS 4.5 タイプ		
型名		GP528W1M4	GP528N1M4	GP528V1M4
CPU	周波数 / 2 次キャッシュ	Pentium ®III 450MHz (512KB)	Pentium ®III 500MHz (512KB)	Pentium ®III 550MHz (512KB)
	マルチ数	1（最大 2）		
メモリ	標準	128MB（128MB DIMM × 1 枚）		
	増設単位	64 / 128 / 256 MB（DIMM 1 枚構成）		
	内蔵最大	1GB（256MB × 4 スロット）		
ビデオ RAM 容量 グラフィックス		2MB VGA チップ：ATI RAGE II C (AGP) 640 × 480、800 × 600、1024 × 768　表示色：解像度、OS により異なる		
サーバモニタモジュール		オプション		
内蔵 5 インチベイ		3 ベイ（標準搭載含む）　種類：CD-ROM ユニット、DAT ユニット、光磁気ディスクユニット、1/4 インチ CRMT ユニット、TRAVAN NS ユニット		
	標準搭載	32 倍速 CD-ROM（IDE）		
内蔵 3.5 インチハードディスクベイ		4 ベイ（標準搭載ハードディスクユニットを含む） 内 3 ベイホットプラグ対応		
	標準	8.4GB × 1（IDE）		
	増設単位	9.1GB（Ultra Wide SCSI）		
	内蔵最大	9.1 × 4 = 36.4GB		
SCSI アレイ		オプション		
バックアップキャビネット		オプション		
拡張スロット		PCI × 3、ISA × 2		
フロッピィディスクドライブ		3.5 インチ（2 モード 1.44MB/720KB）標準搭載		
インタフェース		LAN（100BASE-TX / 10BASE-T）× 1（マザーボード標準搭載)、シリアル× 2、パラレル× 1、キーボード、マウス、モニタ		
キーボード／マウス		標準添付		
外形寸法		横幅 219mm ×奥行き 549mm ×高さ 456mm		
質量		最大 25Kg		
消費電力／発熱量		最大 250W（最大 900KJ/h）		
電源		AC100V(50/60Hz) ／ 2 極接地型		
エネルギー消費効率 (*)		Q 区分、0.096	Q 区分、0.086	Q 区分、0.078

* : エネルギー消費効率とは、省エネ法で定める測定方法により、測定した消費電力を省エネ法で定める複合理論性能で除したものです。

本サーバの仕様は、改善のため予告なしに変更することがあります。あらかじめ、ご了承ください。

2.4.2　内蔵ハードディスクユニットの仕様

内蔵ハードディスクユニットの仕様を以下に示します。

- 内蔵ハードディスクユニット（IDE 規格）

名称	内蔵ハードディスクユニット（IDE 規格） OS インストールタイプ標準搭載
インタフェース	IDE
記憶媒体	3.5 インチハードディスク
記憶容量 (注)	13.6GB
セクタ容量	512Byte
ディスク枚数	2
ヘッド数	4
シリンダ数	16,348
平均回転待ち時間	5.56ms
平均シーク時間	9.5ms(Read) 10.5ms(Write)
回転数	5,400rpm
外形寸法（W X D X H）	101.6 X 146.0 X 26.1 (mm)
質量	620g

- 内蔵ハードディスクユニット（SCSI 規格）

型名	GP5-HDH96	GP5-HDH83	GP5-HD9G3	GP5-HD8G1
インタフェース	Ultra2/Wide SCSI または Ultra/Wide SCSI（注 1）			
記憶媒体	3.5 インチハードディスク			
記憶容量 (注 2)	9.1GB	18.2GB	9.1GB	18.2GB
セクタ容量	512Byte			
ディスク枚数	3	5	3	5
ヘッド数	5	10	5	10
シリンダ数	11,474			
最大データ転送速度	40MB/s(Ultra/Wide) 80MB/s(Ultra2/Wide)			
平均回転待ち時間	4.17ms			
平均シーク時間	7.0ms(Read) 8.0ms(Write)			
回転数	7200rpm			
外形寸法（W X D X H）	101.6 X 146.0 X 25.4 (mm)			
質量	630g			

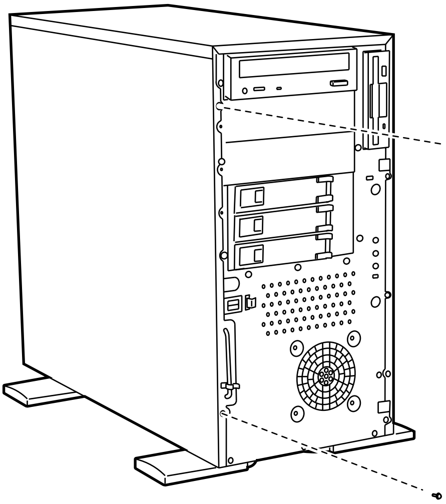
注 1)：SCSI バスの環境に合わせて自動的に切り替わります。

注 2)：記憶容量は、フォーマット時、1GB=1000^{3} B 換算です。

3． 「GRANPOWER5000 モデル 280 (1998 年 10 月発表タイプ) 取扱説明書 (B1FH-4861-03)」の修正

● P.126 (「5.2.2 サイドカバーの取り外し」)

サイドカバーの取り外し手順に誤りがありました。手順 2 を以下にしたがって、読み替えてください。

2 **サーバ本体フロント側 2 箇所のネジを外します。**

取り外したネジはなくさないようにご注意ください。